キャリア教育の計画実行能力の視点で見直しを加えた

特 別 活 動 学 習 指 導 案

平成　年　月　日（　）第　校時
２年　組　人（男子　名、女子　名）
２年　組教室　　指導者　阿部　誠二

＜授業の視点＞

これまでの進路指導の年間指導計画を、キャリア教育で育成が期待される能力の一つである「計画実行能力」育成の視点で見直し、指導内容を再構成した。その結果、計画的かつ継続的に「計画実行能力」を育成するには、これまで３年生で扱っていた内容である「先輩の進んだ進路から学ぼう」を、２年生で指導する方が効果的であると判断した。このように、キャリア教育の視点から指導時期を変更したことは、生徒のキャリア発達を促し、計画実行能力を高めるとともに、進路に対する考え方を深め、今後の適切な進路計画を立てる上で有効であったか。

１　題材名　　進路指導「先輩の進んだ進路から学ぼう」

２　考　察

(1)　教材観

学級活動での進路指導は、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、将来設計を考える力を育成することなどをねらいとしている。進路を決定したり、適性と職業との適合を見出したりする指導が中学校段階では大切であると考えられる。しかし、今後は、生徒たちが社会に出たとき、生きがいのある人生を送れるような価値観を形成していく指導が求められていく。

キャリア教育は、子どもたちにこれまでの自分を振り返らせ、これからを考えさせた上で社会的自立・職業的自立に向けた意識を高める教育の概念である。生徒自身の「自己理解」を促進し、生徒が社会の一員としての自分の在り方を理解することと、社会での職業や勤労及び学校での学習や諸活動に積極的にかかわる意欲・態度を育てることを目的としている。生徒たちが、学校から社会へのスムーズな移行を果たすとともに、未熟な勤労観・職業観に気付き、少しでもその改善に努力する姿勢や態度をもち、働くために必要な基礎的資質や能力を身に付けられるようにする。そのために、社会へはばたく若者の自立を援助していく活動が学校で求められていくと考える。

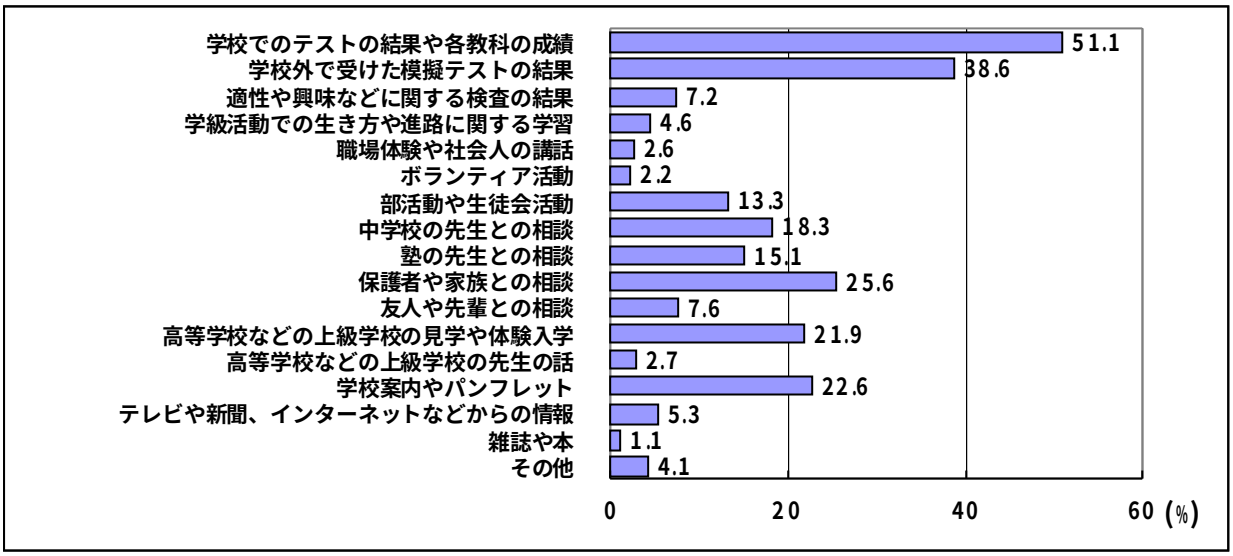
現在、中学校からの進学率が97.7%（文部科学省平成18年度学校基本調査）となり、多くの生徒が高等学校へ進学する中、中学校から進路意識や目的意識のないまま「とりあえず進学」してしまった多くの若者が進学後に不適応を起こし、中途退学や進路変更をするなど、せっかく自分が選んだ進路を変更するといった場面が見うけられる。平成18年度、高等学校を中退した生徒は、全国で77,027人 2.2%、群馬県でも1,126人 2.0%（文部科学省　初等中等教育局児童生徒課　平成18年度生徒指導上の諸問題の現状について）にものぼる。これら退学・進路変更等をした生徒の主な理由については

・入学したら自分の思っていたのとは違った（学校の雰囲気が合わない）
・勉強が難しい　　・人間関係で悩んでしまった
・問題行動　　・別の高校を希望
・就職を希望　　・家庭の事情

となっている。

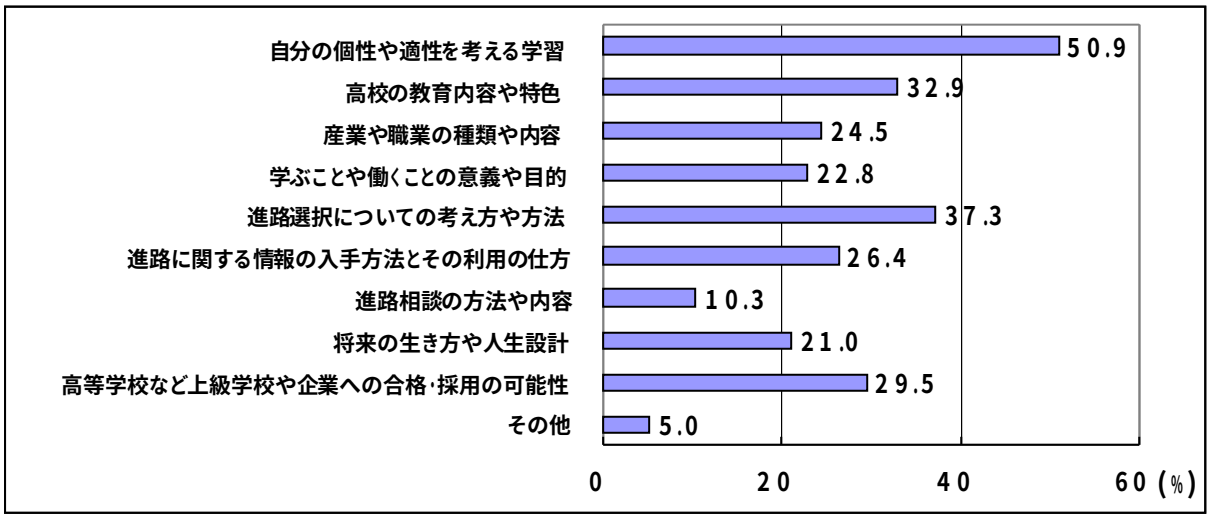
また、日本進路指導協会が平成18年３月に全国の中学３年生と高等学校へ進学後の高校生を対象に行った「中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査」の結果、中学３年生に「進学先選択の際に特に参考になった事柄」を質問したところ、次のような回答が得られている。

【 進学先選択の際に特に参考になった事柄 】



進学先を選ぶ際にはテストの結果や成績面、そして面談等の相談内容とその話し合いの結果が役に立ったと生徒たちは回答している。しかし、高等学校進学後の高校生に「中学校在学時にもっと指導してほしかったこと」を質問したところ、次のような回答が得られている。

【 中学校在学時にもっと指導してほしかったこと 】



進学する際にはテストの点数や成績が優先されがちである。しかし、高等学校進学後には進学のことだけではなく、「自分の個性や適性を考える学習」や「将来の生き方や人生設計を考える学習」そして「進路選択についての考え方や方法」をもっと知りたかったという「生き方」に関する内容を中学校で教えてほしかったという要望があることがわかる。

これらの結果から、生徒たちが進路選択時に自己決定を行う基として、適切な自己理解（個性や適性の把握）と、将来の生き方や人生設計、そして進路選択についての考え方や方法（進学先の学習環境やカリキュラムなどの中身を含め）の理解を深めていく学習が大切であることが考えられる。

(2) 題材の系統

第１学年（自己理解）	第２学年（自己啓発）	第３学年（自己実現）
・中学校生活と学習について考えよう（自己理解） ・計画的な学習を考えよう ・将来の夢を考えよう ・学習計画の見直しをしよう ・進路の計画を立てよう ・１年生を振り返ろう	・自分の特徴を知ろう ・学習計画の検討をしよう ＊先輩の進んだ進路から学ぼう（本時） ・上級学校を調べよう ・進路計画の再検討をしよう ・２年生を振り返ろう	・自分の希望と抱負を考えよう ・学習計画の検討をしよう ・将来の進路を選ぶための心構えを学ぼう ・上級学校の選び方を学ぼう ・進路の決定にあたって ・新しい生活への決意を考えよう

＊「先輩の進んだ進路から学ぼう」は本来３年生で指導しているが、今回は２年生で指導を行った。

【 ３年生で実施する「先輩の進んだ進路から学ぼう」を２年生で指導する理由 】

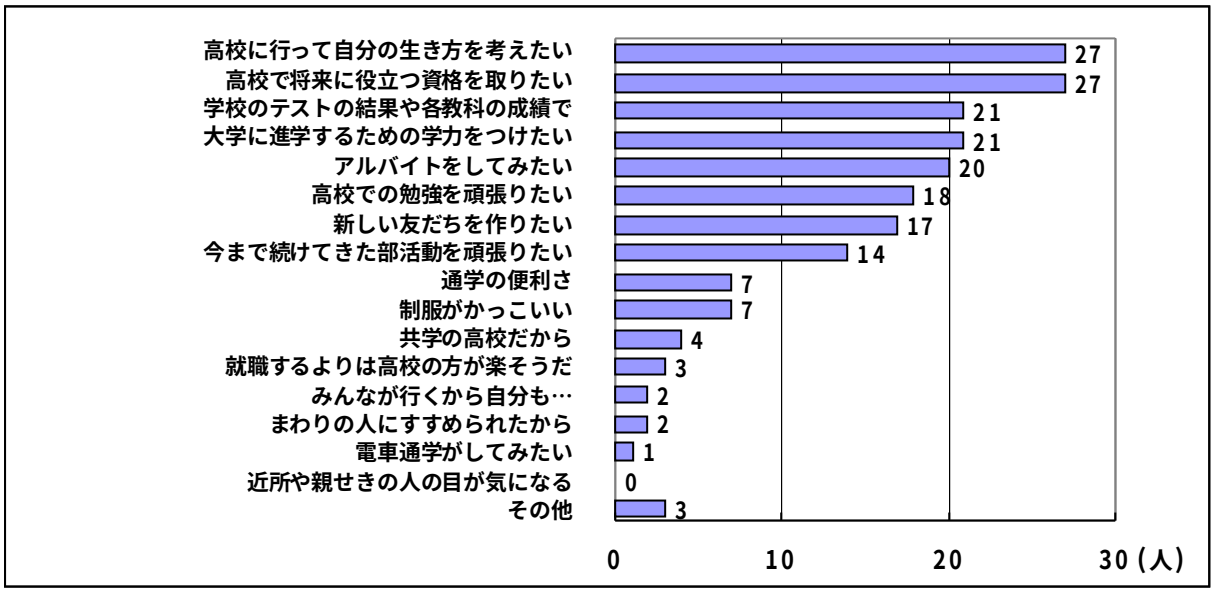
キャリア教育の計画実行能力の視点で進路指導年間指導計画を見直したところ、これまで３年生で指導していた「先輩の進んだ進路から学ぼう」の内容を、指導時期を変更して２年生で指導することで、計画実行能力の継続的な伸長に有効ではないかと考えた。対象学年を２年生としたのは、自分の考えを柔軟に変化させ、新しいことにチャレンジしようとする課題の設定がしやすいためである。また、３年生になって受験をひかえ、余裕のない中であわただしく取り組むことのないよう、２年生の段階からじっくりと時間をかけ、試行錯誤を繰り返しながら、継続して将来の進路計画を立案する能力の伸長を図ることも考慮したためである。

(3) 生徒の実態

学年全体の傾向として素直で真面目な性格の生徒が多い。しかし、自分の考えを主張しすぎたり、逆に自分で考えていることを口に出さずに相手の考えを受け入れてしまったりするといった面も見うけられる。自分の考えに不安をもち、必ず誰かの同意を求めてしまう生徒も少なくない。教師が動機づけを行い主導しないと間違った方向に物事が動き始めることも見うけられる。授業で生徒と接する教科担当者の多くが、与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができるが、自分自身の力で責任をもって何かを決定することに苦手意識をもつ生徒がいると言っている。これは日頃から自らの課題を発見したり、試行錯誤したりしながら、課題を追究しようとする機会が少ないことから発生してくる態度であるように感じる。６月に実施したＰＡＳカード（進路学習に役立つ教育・心理検査）をきっかけに、今まで行ってきた自己理解に関する学習にも積極的に取り組む生徒が増え始め、自分の個性や良さについてもある程度気付き理解を進めてくるようになった。さらに、自分の将来についても真面目に考え始めており、自分に向き合おうとする生徒が少しずつ増えてきた。

事前アンケートの結果では、全員の生徒が高等学校への進学を希望している。この中で、すでに進学したい高等学校について具体的に考えている生徒が38名（２学年70名中）いる。本時の学習を行う前に行ったアンケートの結果から、進路を考える際の生徒の選択基準については「高校に行って自分の生き方を考えたい」「高校で将来に役立つ資格を取りたい」「大学に進学するための学力をつけたい」「高校での勉強を頑張りたい」「新しい友だちを作りたい」など、高校に進学してからの自分の将来に期待する内容が多く、比較的前向きに自らの進路を考えている生徒が多いことが分かる。しかし、進学する目的はという質問に「よい高校」「よい大学に入るため」と回答し、学校の中身を吟味せず、名前から選ぼうとする生徒もいる。さらに「学校のテストの結果や各教科の成績で」の割合が高いのも、高校を選択する際にはテストの結果や成績といった自分の学力にも重点を置かざるを得ない状況にあることも分析できる。「アルバイトをしてみたい」という生徒も多くおり、どちらかといえば高校本来の生活とは離れた活動に魅力を感じている生徒も多い。しかし、この中にも将来に関係する仕事を体験しておきたいという生徒も若干おり、自分の進路に対して前向きな考えをもっている生徒もいる。

【 これから進学したい高校を選ぶときに、どんなことを基準に考えていますか 】



３　指導目標

中学校１年生から積み重ねてきた進路学習の知識と経験を基に、自分の個性や適性の自己分析ができるようにする。また、それに基づいた現在における暫定的な進路計画が立てられ、その実現に向けて努力をしようとする。しかし、進路決定に対する不安や悩みは誰もが必ず抱くことも理解し、それを乗り越えて自分自身で解決していくことが計画実行能力を伸ばすことにも気付くことができるようにする。

【「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」（以下、学習プログラム例）の活用法】

今回の学級活動での進路指導におけるねらいは「先輩の進路決定時及び卒業後の考え方や、同級生の進路に関する考え方から得た情報を基に、様々な視点から自己分析を行い、自らの進路選択の傾向をつかんだ上で見通しをもった進路計画を作成しようとする」である。このねらいをもとに、進路計画を立案する能力の伸長を図る授業において、育成が期待される能力を具体的に設定する際に学習プログラム例を活用した。まず、４領域８能力の領域説明から進路計画を立案する能力に関連する表記を探すと、「将来の生き方」「自己の将来設計」に触れた記述が将来設計能力の領域に見られる。授業のねらいに照らし、将来設計能力に含まれる二つの能力のうち、計画実行能力を育成する能力として焦点化した。さらに、計画実行能力に示された中学校段階で育成が期待される能力・態度に着目し、『進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する』をより具体的な目指すべき姿として想定した。このようにして、キャリア教育で育成が期待される能力・態度を具体的に設定するとともに、キャリア教育の視点からの授業のねらいと評価規準を作成し、これを基に授業を構想した。

＊学習プログラム例について

学習プログラム例は、平成14年11月、国立教育政策研究所生徒指導研究センターより出された『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）』で示されたもので、社会的・職業的自立に向けて、各学校段階において育成が期待される能力・態度が、どの程度身に付いているかの見取図として作成された。各学校段階におけるキャリア発達課題を横軸に、キャリア発達にかかわる諸能力、すなわち、児童生徒が将来自立した社会人・職業人として生きるために必要な４つの能力を領域として設定し、縦軸に配置している。さらに、この４つの領域を、それぞれ２つの下位能力に分け、８つの能力として示している。

【進路指導におけるねらいと学習プログラム例との関連付けの仕方】

なお、学習プログラム例を活用するに当たっての注意点として、キャリア教育で育成する４領域８能力のすべての能力を授業のねらいに当て込むことのないよう注意し、できるだけ焦点化し指導に役立てることにした。

４　評価規準（キャリア教育の視点で見直しを加えて作成）

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
自分の将来の生き方に対する関心を持ち、進んで自分自身がもつ良さを見出し、進路決定に役立てようとする積極的な生き方を見つけていこうとする。	自分のもつ適性を的確に把握し、見通しをもった進路計画を作成するとともに、その進路設計を適切に実行していくために、今、何をなすべきかの判断ができるようにする。	進路計画を立てるために必要となる適切な進学や就職にかかわる情報や資料を収集、活用しながら、進路の選択・決定に役立てることができるようにする。	自分の生き方、学び方そして働くことなど、学ぶことと働くことの意義を理解し、身に付けた知識をもとに適切な進路選択を行うとともに、なぜその進路を選択したのかを説明できる。

５　指導方針

(1) 進路計画の立案に当たっては、生徒一人一人に自己の適性と将来の夢や希望について自己理解を十分に深めさせ、見通しをもった進路計画が立てられるよう支援する。

(2) 進路の選択を行う場面では、できるだけ多くの情報を基に適切な視点で判断できるようにする。

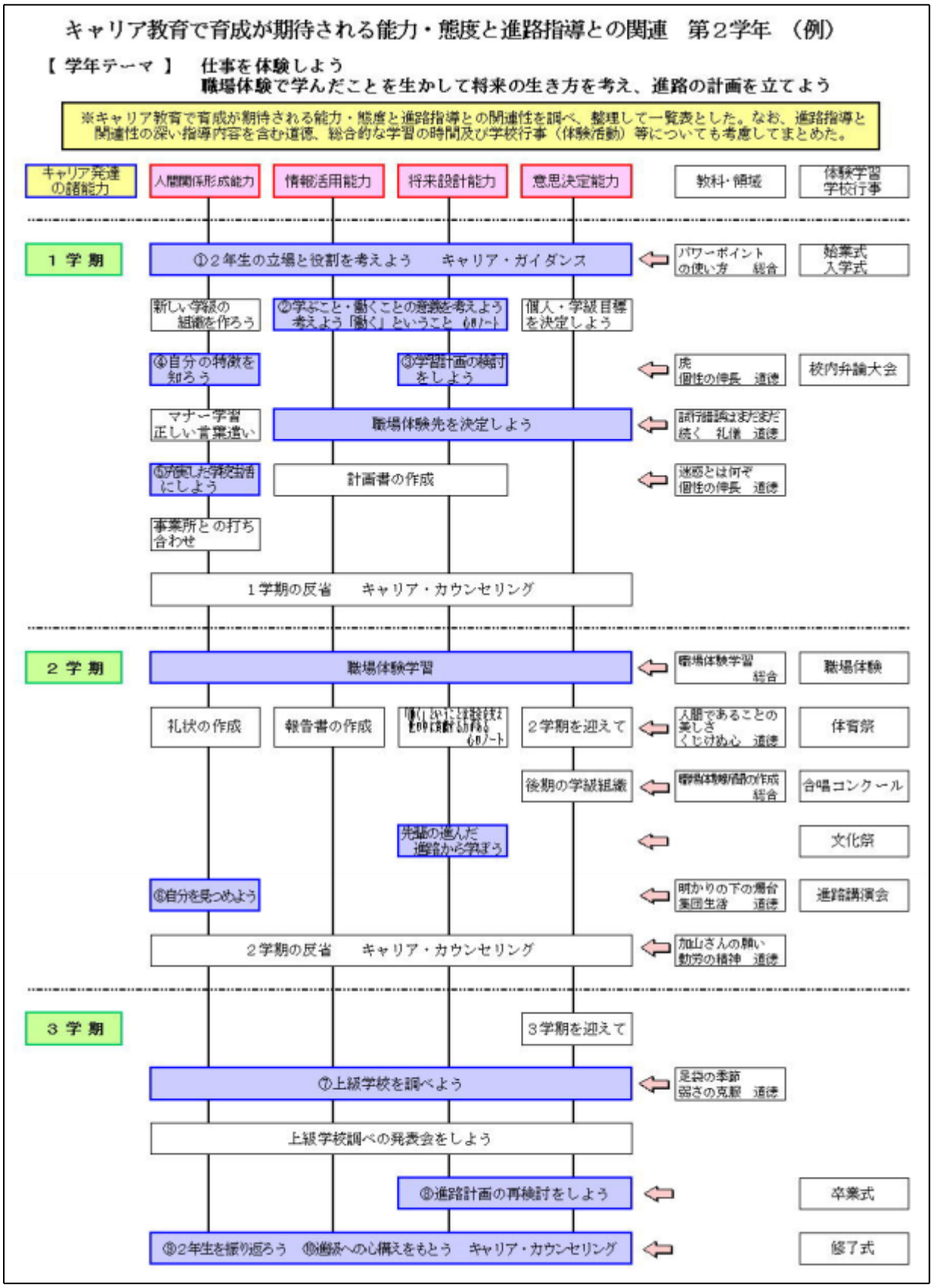
(3) 進路選択の場面では、誰もがみな不安をもちながら進路決定を行ってきたことを理解することにより、その不安の中でも責任をもって自分の進路の選択ができるようにする。

【第２学年　学級活動　進路指導計画】

	題材名	学習内容（ねらい）
第１時	２年生の立場と役割を考えよう （２年生になった自分）	・第２学年の学習や活動の内容や特色を理解し、中堅学年としての役割や学校生活の目的をつかむ。 ・様々な視点から１年間の過ごし方について考え、自分なりの判断で自分の進路についての目標と心構えをもつ。
第２時	学ぶこと・働くことの意義を考えよう (働くことについて考えよう)	・なぜ社会に出て働くのか、またなぜ職業につくのかを考え、職業観・勤労観についての理解を深める。
第３時	学習計画の検討をしよう （学習環境づくり）	・中堅学年として学習に臨む姿勢、態度ついて、「学ぶ」ことの意義と役割を理解し、将来に向けて学び続ける意欲をもつ。
第４時	自分の特徴を知ろう （職場体験学習）	・将来、職業人、社会人として積極的に社会にかかわるための基礎となる職業観・勤労観を身に付ける。
第５時	充実した学校生活を送ろう	・学校内外における様々な集団の中で、自分の行動の仕方や生き方について考え、望ましい人間関係を確立していく。
第６時 (本時)	先輩の進んだ進路から学ぼう	・先輩がこれまでどのような視点で自分の進路を考え、計画・実行してきたかを資料から読み取り、今後、自分の進路計画を立てる際に有効に情報を役立てる。
第７時	自分を見つめよう （夢を実現するために）	・夢を実現するためにはどのような努力が必要かを考えるとともに、自らの意志と責任で進路を選択し、その実現に向かって努力をする先輩の姿を来年の自分自身と重ね合わせ前向に努力する姿勢を身に付ける。
第８時	上級学校を調べよう	・地域にある上級学校を自分の手で調べ、上級学校のしくみとその内容を理解し、自分自身の進路選択の大切な情報として生かすことができるようにする。
第９時	進路計画の再検討をしよう	・第２学年の最終学期を迎え、今まで学習してきた内容や収集した進路情報を基に、さまざまな視点から進路計画を作成していく。
第 10 時	２年生を振り返ろう	・これまでの１年間を振り返り、自己のもつ適性の正しい理解と２年生で身に付けた自分の良さとは何かを考え、３年生での生活に生かそうとしていく。
第 11 時	進級への心構えをもとう	・最上級生としての自覚をもとうとするとともに、自分自身で進路決定をする立場となることへの心の準備をしていく。

進路指導のねらいは、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、将来設計を考える力を育成することである。学習プログラム例で例示されたキャリア教育で育成する４領域８能力と比較すると、この２つには特に深い関連性が見出せる。そこで進路指導の年間指導計画のねらいとキャリア教育で育成する４領域８能力との関連付けを行い、図にまとめた。この過程で進路指導と関連性の強い指導内容を含む道徳や総合的な学習の時間、学校行事(体験活動)等についても考慮し、同一の図にまとめた。

【第２学年　進路学習とキャリア教育の関連項目（例）】



６　本時の学習

(1)　ねらい

先輩の進路決定時及び卒業後の考え方や同級生の進路に関する考え方から得た情報と、様々な視点からの自己分析の結果を基に、進路計画を作成しようとする意欲を高める。

(2) 準備

（授業者）ワークシート、事前アンケート集計結果、学習資料、読み物資料
（生徒）　ワークシート、事前アンケート、学習資料

(3) 展開

学習活動	時間(分)	学習活動への支援及び留意点	評価規準【方法】
１．高校進学率が高いことからから、なぜ高校へ進学していくのか、その目的を自分なりに考えていこうとする課題意識をもつ。 （つかむ段階）	５	・配付したワークシートに高校進学率、大学進学率の予想を記入させる。なかなか予想が立たない場合には、中学校卒業者の状況を示した棒グラフを配付し、ワークシートに貼らせ、それを基に状況を把握させる。 ・多くの人が高校へ進学する現状から進学することの意義を考えていこうとする態度をもたせる。	
２．中学校卒業後の進路にいろいろな選択肢があることを表を見ながら理解する。 高校入学後、中退してしまった人の人数を予想し、その結果から、高校へ進学する目的は何かを自分なりに考えようとする。 事前アンケートの集計結果と自分のアンケートを見て、自分の進路選択の基準を確認する。	４０	・中学校卒業後の進路にもいろいろな選択肢があることを表を見せながら説明し、進路の可能性を広げる。 ・全国で高校を中退してしまった人の人数を予想させ、ワークシートに記入させる。 ・高校生活に期待して高校へ入学したはずなのにもかかわらず、高校中退者がとても多いことにも注目させ、その理由を簡潔に説明する。 ・入学したら自分の思っていたのとは違った（学校の雰囲気が合わない） ・人間関係で悩んでしまった ・勉強が難しい ・問題行動 ・別の高校を希望 ・就職を希望 ・家庭の事情 （文部科学省　初等中等教育局児童生徒課 平成17年度生徒指導上の諸問題の現状について） ・あらかじめ高校生が回答した「期待する高校生活」の順位別資料を提示し、自分の考えと比較をさせてみる。　（資料１）	高校進学後の中退者数を聞き、なぜこのような結果が出てきたのかを、教師の説明から自分なりに考えようとする。 【行動観察】 関心・意欲・態度 今まで考えてきた進路選択が多面的な見方から判断されていたかどうかを振り返る。 【ワークシート】 思考・判断

自分の進路希望を見つめ直す。 （追究する段階）		・事前に行った進路に関するアンケート集計結果を提示し、自分の現在の状況と他の生徒の様子を比較させ、集団の中での自分の現状を把握させる。（他の生徒と異なる結果であっても、この時点では心配しないよう十分に配慮する）　（資料２） （振り返りの活動） ・自分の選んだ項目でグループを作り、その中で話し合わせる。 ・自分の進学先選択について曖昧な回答をしてしまった部分がないかを考えさせる。 （振り返りの活動） ・進路に対する自分の考え方を振り返った後で、自分が考えていた進路計画をもう一度見直しをさせてみる。	
※将来の進路を計画するに当たり、自ら設計していく力が重要であることを理解する。 **＜キャリア教育の将来設計能力の視点＞** ①どのような観点で自分の進路希望を選択したのか。 ②何度も熟考した結果での選択であったかどうか。 ③将来の進路計画を基に自分自身で責任をもって決定したものであったか。			
今日の授業から、進路を決定するときにはどんなことに気を付けるのかを考えワークシートに記入する。 目的もなく進学してしまうと進学後に迷いや悩みが発生することを理解する。		・進路を決定するとき、具体的にどんなことに気を付けていこうとするのかを本時の学習から考え、ワークシートに記入させる。 ・どの生徒も進路に関する不安や悩みがあることを生徒に伝える。 ・悩みをどのように解消していくか、その場から逃げずに前向きに考えていけるよう支援する。	自分のこれからの進路について主体的にとらえ、具体的な行動を考えている。 【ワークシート】 思考・判断
３．本時での考えをまとめ、ワークシートに感想を書く。あわせて三者面談の日程も確認する。 読み物資料を配付し、現在は著名人となっている人でも少年期には、進路選択でいろいろ考えてきたことを伝える。 （まとめる段階）	5	・本時の感想を書かせ、これから実施される三者面談において、担任と自分の将来の希望を真剣に話し合い、より理想とされる具体的な進路計画を作成し、自分が納得した進路決定ができるよう支援する。 ・吉村作治氏の少年期を記載した記事を配付し、現在有名な人物でも、少年期、青年期には自分の進路についていろいろと悩んでいたことを伝え、みな同じように試行錯誤しながら自分の手で進路を切り開いていったことを理解させる。	